

ギベルティ、物語芸術の匠  
(「ロレンツォ・ギベルティとその工房」より)  
ゲイリー・M・ラドク  
Ghiberti, master storyteller  
(from “Lorenzo Ghiberti and his Workshop”)  
Gary M. Radke

関根 浩子・金田 紗弥・呼子 和友 共訳  
Transl. Hiroko SEKINE, Saya KANADA, Kazutomo YOBUKO

崇城大学芸術学部美術学科教授／崇城大学芸術学部美術学科芸術文化コース3年  
Professor, Department of Fine Arts, Faculty of Art, Sojo University  
Third-year univ. studt., Arts & Culture Course, Department of Fine Arts, Faculty of Art, Sojo University

ギベルティは聖なる物語の伝承方法に精通した。彼は重要な細部表現のすべて、すなわち誰が何をしていたか、また登場人物たちがどのように見、どのような感情を覚え、どのように影響し合ったのか、さらに彼らは自然ではあるが寄せ集められた環境の中のどこに立ち、あるいは座っているかに留意した。彼は決して途方に暮れたり悩んだり、あるいは難題を棚上げにしたりせず、常に森と樹々の両方に留意した。

さらにギベルティは、1424年末に天国の門のデザインを依頼された際には、エピソード順に逸話を物語るというかつて試みた妥当な方法にはもはや満足してはいなかった。ブロンズの門扉を常に数多くの個別のパネル——アンドレア・ピサーノと彼自身の最初の門扉の場合には28——で飾ってきた千年の伝統を破り、ギベルティと彼の助言者たちは、旧約聖書の偉大な初

期の歴史を、印象的で都合のよい10章に要約することを思いついた(図1、2)。それに伴い、預言者や巫女はそれらの側面を固め、アダムとエバ、ノアと彼の妻エムザラはそれらの上部と下部に横たわることになる。

芸術的経験と聖書に関する新しい学識はいずれも、ギベルティの意匠に影響を与えた。シエナの洗礼盤の周囲に配されている四角いパネル群は、早くもギベルティを鼓舞し、自身とアンドレア・ピサーノが先行の門扉群を構成した際の複雑で限定的な四葉菱型の人工的枠から抜け出させた。この新たな構成によって、あたかも枠付きの窓から眺めているかのように、複雑な諸々の物語がより深度のある魅惑的な空間に配されていると想像しながら、これまで以上に画家のごとく物語る時期が到来したのである。ちょうど同じ頃、非常に著名であった

サンタ・マリア・デッリ・アンジェリ修道院長アンブロジーヨ・トラヴェルサーリや、彼の親友であったニッコロ・ニッコリといったフィレンツェの学者たちは、ギリシア語やヘブライ語、また初期のラテン語文書を学んでいた。彼らはそれらの文書のお蔭で、簡潔で首尾一貫した新たな方法で聖史を理解できたのである。

彼らは、フィレンツェの初代司教に就任して最初のサン・ロレンツォ聖堂を献堂した聖アンブロジウスの著作が特に魅力的であるのを思い起こした。そこには聖史を単に年代記的（「これがその後に起こり、何か別のことが続いた」）に書き留めなかった非常に体系的な構想者がいた。アンブロジウスは、聖史を年代記的に留める代わりに、それをより象徴的で物語的な単位や章へ一体化させるパターンや相互関係を構想したのである。

そしてトラヴェルサーリとニッコリは、ラテン語学者のレオナルド・ブルーニが、ちょうど先行する門扉群と同様に、20の特色のある主題と8人の傑出した人物像から成るはずであった天国の門の計画（図3）を提案すると、それを嘲笑った。そうした（彼らが皮肉を込めてブルーニの提案をそう呼んだような）「見事な」発想は何に拠っていたのだろうか？ブルーニは、名誉なことに、洗礼堂の最後の門扉一式のためのどのような計画であれ、それらに望まれる諸特質、つまり「一方ではそれらは豪華さを示すべきであり、他方ではそれらは意味を持つべきである」ということをはっきり淀みなく示した。そして「豪華さとは、扉のデザインの多様さを通して目を楽

しませることであり、意味があるとは、そうした（主題が）記憶に値するほど申し分なく重要であるということである」と説いた。

問題は、ブルーニがギベルティに描写して欲しいと思った20のエピソード、つまり、世界の創造から一つの物語、エデンの園から三話、カインによる弟のアベル殺し、箱舟に入るノア、イサクを犠牲にするアブラハム、またヤコブを祝福するイサクからそれぞれ一つ、しかしヨセフの生涯からは三つ、モーセの生涯から四つ、アロンから二つ、ダビデから二つ、ソロモンからちょうど一つ、加えて8人の預言者を想起し、選り分けるのは容易ではないということであった。これらの物語はいずれも象徴的で寓意的な意味を帯びていると解釈されていたが、ブルーニがその示唆によって提供した図式が示しているように、そこにはテキスト的にも視覚的にも対称性や均衡は見られなかった。主題は、先行の門扉群の伝統的な7×4の格子で単純に配されてはいなかった。物語が一つの列すら満たさないものもあれば、ある物語から次の物語へずべるように流れていく物語もあった。

ブルーニの消極的な例を前にして、ギベルティと彼の助言者たちは、1. アダムとエバ、2. カインとアベル、3. ノア、4. アブラハム、5. ヤコブとエサウ、6. ヨセフ、その後に類似の包括的なアプローチが続いて7. モーセの複数の物語、8. ヨシュア、9. ダビデ、10. ソロモンという、聖アンブロジウスの旧約聖書に関する研究に従ったはるかに巧みな計画を思いついた。結局、ギベルティは、ブルーニが提示した

数の2倍以上に当たる47もの旧約聖書のエピソードを、半分のパネル数で描写することができた。面積が増した各パネルは、彼が、物語をより連続的に展開させ、また、大きな建物を特色付けるか奥行きのある空間や雰囲気を示唆することもあった、より複雑で空間的に印象深い舞台を創出するのを可能にし、鼓舞しさえした。24人の立像の預言者と巫女、そしてその他の24人の頭部——自分自身と息子のヴィットリオの肖像を含んでいる——で自身のレリーフを取り囲むことで、ギベルティは、門扉をいっそう簡潔かつ複雑にし、ブルーニの豪華さと意義深さという対の目的を完璧に成し遂げたのである。

しかし、ギベルティは自分では殆ど制作しなかった。彼は自伝の中で、「私は最も完璧で装飾的かつ豊かになると思ったどのような方法であれ、それを実行する自由裁量を与えられていた」と語っているが、彼の用語（「完璧で装飾的で豊かな」）は、彼が第一に考えていたことが必ずしも門扉の図像ではなく、その美的な広がりであったということをはっきりさせる。トラヴェルサーリとニッコリはおそらく彼に、どのエピソードを強調し、どこに何らかの特殊な細部描写を含ませるかについて助言したと思われる。ギベルティがノアのパネルに描写した、小舟型というよりむしろピラミッド型の箱舟は、例えば、彼が何らかの聞き慣れない奇妙でさえあるアドバイス——この場合、この特殊かつ不適当な箱舟を思いついた唯一の著者である初期のギリシアの神学者の、発見されたばかりの著作について知った誰かから——にたまたま従ったに

違いないということをはっきりさせる。ギベルティが箱舟を形作った際、トラヴェルサーリかニッコリ、もしくは誰か他の学者が、以前の表現はすべて誤りであり、ギベルティの新しい翻案こそ聖書の経過についてのより正確な理解に至る方法を示すものになると彼を説得したのに違いない。結局のところ、ギベルティと彼の助言者（たち）がどちらも間違っていたということは重要ではなかった。彼らは明らかに、図像的にも様式的にも新しい領域を確保することに耽ったのである。

ギベルティと彼の助言者たちはまた、協力して、その門扉の最後のパネル上にソロモンとシェバの会見を表現するという異例の決定を行った。ソロモン王の生涯の中では、ソロモンの審判が長きに亘ってより人気のある物語であったから、他の旧約聖書に関する連作にはどれ一つとして、この物語で完結しているものはなかった。ソロモンとシェバはさらに、当時のフィレンツェにおいては特別な反響をもったに違いない。ギベルティが自身のレリーフを形作っていた間一杯（1425-1436）、またそれより前ですら、トラヴェルサーリやニッコリ、教会の多くの指導者たちは、ローマ教皇を頂点とする西方キリスト教会と、コンスタンティノーブルのギリシア正教会を再統合しようと試みていた。キリストの、それゆえ教皇たちの最も傑出した祖先のうちの一人であるソロモンと、「東方」から来た女王シェバの組み合わせは、そのような望ましい統合の予型であり、それゆえその統合を寓意的に表現するものと解釈されることもあった。東方と西方との間の実際の和解

を短期間で達成したフェッラーラとフィレンツェにおける会議は、(ギベルティがレリーフを鑄造した後の) 1438/39 年まで開かれなかったが、教皇エウゲニウス 4 世は 1431 年にその統合に非常に重きを置き始めた。それは、ギベルティがおそらくこの最後のレリーフを造っていたちょうどその頃のことであった。

純粋に物語的な観点から言えば、ソロモンとシェバの会見はまた、それがなければ争いや劇的な感情に支配される 10 章の物語に対して、思いがけず楽観的な終結を提供した。今やこの連作は、理想的なソロモンの神殿の中に置かれた調和のとれた統一的な場面で終えることができた。その神殿は、表現しようとしていた古代の建築というより、はるかにフィレンツェ大聖堂の断面図のように見えるが、このことはフィレンツェ人を殆ど悩まさなかったに違いない。というのも、学者たちが最近明らかにしたように、フィレンツェ大聖堂は、聖書がエルサレムの神殿について記しているのと同じ幾何学的な比率をもっているからである。両者の一致については、作曲家のギョーム・デュフェイもまた、1436 年の同大聖堂の献堂式用に作った自身のモテット「ヌーベル・ロザールム・フローレス」の構成中に組み込んでいた。

助言者たちがひとたびその主題を選ぶと、ギベルティはおそらくこれまで以上の関心を求めて自身の聖書を熟読したと思われる。ソロモンを訪ねるシェバの物語へ誘う初期の諸王に関する諸章の中で、ギベルティは、ティルス出身のヒラムの物語に出会ったに違いない。このヒラムは、「ブロンズ

制作者で…知恵や理解力、技術に満ち溢れ」(列王記上 7:14) ており、エルサレムの神殿のために、どっしりとした青銅の柱頭や礎石、洗礼盤、水盤、壺、火鉢を制作した人物である。ギベルティは、物語をフィレンツェに設定する方を好み、自身のレリーフ中に上述のようなエルサレム的事物を表現しなかったが、自身をささやかながらもヒラムの志を継ぐ者と見做して、来るべき世代のために、ブロンズ鑄造やブロンズ鑄造家の名声を容易に引き延ばすことができた。

ギベルティはまた、自身に割り当てられた他のすべての主題に直接関係のある聖書のテキストを検証したと思われる。本章を締め括るに際して我々は、そうした聖書のテキストと、1447/48 年の冬に書かれたギベルティの自伝からとった同じ物語に関する彼の要約を掲げることにする。ギベルティは、奇妙なことに、時に、自身の叙述中にレリーフには見られない細部表現を含み、また他の場合には、示すのに苦労した重要な細部表現を省くこともあった。彼は明らかに、まだ完全に組み立ててはいなかった門扉の前に立ってではなく、記憶をもとに制作していた。彼が引き受けた仕事の途方もない大きさが示唆しているように、ギベルティですら、表現するよう求められたすべてのことを思い出すことができなかったのである。

## アダムとエバ

### 1. アダムの創造 (図2-1)

物語はパネルの左下方から始まる。創世記の語りによれば、神はアダムを自身に似

せて創った。4人の天使が父なる神の上部に浮遊している。神はアダムを祝福し、彼を形作った地面から起き上がらせて生命を与えている。

「主なる神は地面の埃から人を創り、鼻の穴に生命の息吹を吹き込んだ。人はこうして生きる者となった。」『創世記2:7』

## 2. エバの創造

ギベルティは、画面の中央にエバの創造の場面を描いている。アダムは小川のほとりの地面に寝転んでいる。天使たちはアダムの脇からエバを起き上がらせ、同時に他の天使たちは、父なる神がエバの伸ばした手をつかみ、祝福によって彼女に命をもたらしているのを祈りながら見ている。

「主なる神が人に深い眠りを齎し、人は眠りに入った。そして主なる神は人の骨のうちから一つをとり、その場所に肉を詰めた。主なる神は、人からとった骨を女とし、人の所に連れて行った。人は、「これは私の骨の中の骨、私の肉の中の肉である」と言った。彼女は男からとられたものであるから、女と呼ばれるであろう。」『創世記2:21-2:23』

## 3. 園での誘惑

ギベルティは、そのレリーフの左側の青々と茂った園に、アダムとエバ、そして蛇の姿を示している。蛇はエバをそそのかして1個の禁断の果実を掴み取らせようとした。アダムは左手を上げて抗っているが、蛇の正面にいるエバと右手を繋いでいる。

「しかし蛇は女に言った。「お前は死なな

いであろう。というのも、神は、お前がその実を食べれば両眼が開かれ、自身のように善悪を知る者となることを知っておられるから。」そして女は、その木が美味しそうな良い果実を供するものであり、目には喜びを与え、食した者を賢くすると思われる」と分かり、その実を取って食べた。さらに女は男にもその実を与え、彼も食した。」『創世記3:4-7』

## 4. 楽園からの追放

神の命令に背いたので、アダムとエバは自分たちが裸であることに気づき、自分たちの性器をイチジクの葉で覆い隠した。ギベルティは、天空にいる多くの天使と父なる神が、一人の天使に強いて、怯えている二人を楽園のアーチ型の出口から追い立てさせている所を示している。天使は当初は剣を持っていた。

「そうして主なる神は彼をエデンの園から追い立て、彼がそこから取られた地面を耕す者とした。こうして主なる神は男を追い出し、生命の樹を守るために、エデンの園の東にケルビムと、あらゆる方向を向く剣の炎を置いた。」『創世記3:23-24』

ロレンツォ・ギベルティ『コンメンタリー』

「最初の場面は男と女の創造であり、また、いかにして彼らが万物の創造者に従ったかを示している。また、この同じ物語には犯した罪によって彼らがいかにして楽園を追放されるかが示されている。従ってこの場面には四つの物語、すなわち出来事が含まれている。」

## カインとアベル (図2-2)

### 1. アダムとエバの家族

物語は上方左隅の、アダムとエバが幼い息子のカインとアベルとともに小屋の前に座っている場面から始まっている。

「さて、男は妻エバを知り、そして女は妊娠してカインを産んだ。」『創世記4:1』

### 2. 原野でのカインとアベル

パネルの左側の底部に、カインは土を耕す農夫として示されている。彼の上方の中央の地面では、羊飼いのアベルが羊の群れの番をしている。

「アベルは羊の番人で、カインは土を耕す者であった。」『創世記4:2』

### 3. カインとアベルの神への供犠

物語は、かなりかけ離れた、兄弟が神にそれぞれの供物を捧げている場面が続く。神はアベルの供物を好意的に注視しているが、カインのものには目を向けていない。

「時を経て、カインは主に大地の作物を供え、一方のアベルはこの羊の群れの中でも肥えた初子を供えた。」『創世記4:3-4』

### 4. カインがアベルを殺害する

神がアベルの肉の供物を受け取り、カインの作物の供物を拒否した直後、カインがアベルを殺害する。

「二人が野原についた時、カインは弟のアベルに向かって立ち上がり、彼を殺した。」『創世記4:8』

### 5. 神はアベルを探し、カインを呪う

物語は神のアベル探しに続き、カインは

誰もが知っているように「私は弟の番人ですか？」と神に答える。それから神はカインを呪い、永遠に地をさまよう者にする。

「その時主はカインに、「お前の弟アベルはどこだ？」と言われた。彼は、「わかりません。私は弟の番人ですか？」と答えた。主は、「お前は何をしたのだ？…お前は以後、手にかけた弟の血を、口を開いて受けた大地から呪われる。地を耕しても、大地はもはやお前が作物を産するのを許しはしない」と言われた。」『創世記4:9-11』

ロレンツォ・ギベルティ『コンメンタリ』

「2枚目のパネルには、アダムとエバがどのようにカインとアベルという小さな子どもを設けたかが示されている。そこには彼らがどのように供物を捧げ、カインが自分の持てるひどく見劣りのする価値のないものを捧げ、またアベルが自分の持てる最高かつ尊いものを捧げたかが示されている。アベルの供物は主に受け入れられたが、カインの供物は正反対に受け入れられなかった。そこにはカインがいかにアベルをねたんで、殺害するかが示されている。そのパネルでは、アベルは自分の群れの番をし、カインは土を耕している。また、いかに主がカインに現れ、殺害した弟のことを彼に尋ねるかが示されていた。従ってこのパネルには、四つの物語の出来事が見られる。」

## ノア (図2-3)

### 1. アララト山に漂着するノアの箱舟

このパネルの最初の場面は、アララト山の山頂に漂着したピラミッド型の箱舟を示

している。ノアとその家族は箱舟から出、同時に鳥は箱舟の頂上から飛び出している。動物は風景の中をぶらついており、そこには、ノアとその家族のちょうど足元に一体の亡骸が置かれている。

「その時神はノアに、「あなたやあなたの妻や息子たち……鳥や動物、地を這うあらゆるものも箱舟の外に出よ。地上に栄え、多くの子を産み、増殖するように」と言われた。」『創世記8：15-17』

## 2. ノアの神への供犠

右の前景では、ノアが洪水から生き残った後、神に供犠を行っている。

「それからノアは主に祭壇を築き、すべての汚れない動物や鳥を取り、祭壇に焼く尽くす献げ物をささげた。」『創世記8：20』

## 3. 虹の創造

上方右隅に、神が一連の同心円の中から出現し、地上のすべての生命ある被造物を二度と滅ぼさないというノアへの自身の約束を想起させている。

「雲の中に虹が現れると、私は、私と地上のあらゆる生き物、すべて肉なるものとの間に立てた永遠の契約に心を留めるであろう。」『創世記9：16』

## 4. ノアが痛飲する

パネルの左側前景の葡萄の木で覆われた小屋の中の、二つの葡萄酒の樽の前方に、痛飲して半裸のノアが横たわっている。ノアの息子のハムは、自分では父を覆い隠さず、兄弟を呼び寄せて父を覆い隠そうとし

ている。

「土の男ノアは、葡萄を植えた最初の男であった。ノアはいくらかワインを飲んで酔い、裸で小屋に横たわった。そしてカナン

の父ハムは、父の裸を見て、外にいた二人の兄弟を呼びに行った。」『創世記9：20-22』

ロレンツォ・ギベルティ『コンメンタリ』

「第3のパネルでは、ノアが嫡子や妻、全ての鳥や動物とともにどのようにして箱舟から出るかが示されている。彼はまたそこで一族全員とともに供犠を行っている。そこには、ノアがいかにして葡萄の木を植え、また、いかにして酔って息子のハムにあざけられ、いかにして他の二人の息子によって覆い隠されるかが示されている。」

## アブラハム（図2-4）

### 1. 神がアブラハムに妻が子を持つと告げる

物語は、左側の、3人の天使がアブラハムに近づき、彼の年老いた妻サラが子を産むと告げるところから始まる。サラは、群像の背後の天幕の扉の所に立ち、信じられない思いで腹を見ている。アブラハムは子が産まれたとき、百歳であったと言われていた。高い木の列が場面の端に並んでいる。

「アブラハムが日中の暑さのなか、天幕の入口に座った時、主がアブラハムに現れた。アブラハムは目を上げ、自分の傍に立っている3人の人を見た。彼らはアブラハムに、「あなたの妻のサラはどこにいま

すか」と言った。アブラハムは「その天幕の中におります」と言った。それから3人のうち一人が「時が来たら必ず私はまたあなたの所に来ます。その頃には、あなたの妻サラに子が生まれているでしょう」と言った。」『創世記18：1-10』

## 2. 神がアブラハムの信仰を試す

アブラハムとサラの息子のイサクが少年期に達したとき、神は、息子を犠牲にするよう命じることで、アブラハムの信仰を試した。アブラハムは、驢馬と二人の召使いを連れて山へ行き、焼き尽くす供物を用意した。

「神は「アブラハム！」と彼に呼びかけた。すると彼は「私はここにいます」と答えた。神は「あなたの息子、あなたが愛する独り子のイサクを連れてきなさい。そしてモリアの地へ行き、私が命じる山々のうちの一つに登り、焼き尽くす献げ物として彼をささげなさい。」『創世記22：1-2』

## 3. イサクの犠牲

アブラハムは大きな山の頂の祭壇の所に立っている。祭壇では、彼は、イサクを打つため手を上げているが、一人の天使が間に入って彼の手首を掴んでいる。その天使は羊を指差し、その羊は彼の息子の代わりに供犠に供された。

「彼は、自分の息子のイサクを縛り、森の頂上の祭壇の上に彼を横たえた。そしてアブラハムは手を伸ばして、息子を屠るために刃物をとった。しかし、主の天使が天国から彼を呼び、「アブラハム、アブラハム」と言った。彼は「はい」と答えた。天

使は「息子を手にかけてはいけない、何もしてはならない。あなたが神を畏れる者であることが、今、分かったから…」とやった。そしてアブラハムは目を上げ、茨の茂みに角をとられた雄羊を目にした。アブラハムは行って雄羊を捕まえ、息子の代わりに焼き尽くす献げ物としてそれをささげた。」『創世記22：9-13』

ロレンツォ・ギベルティ『コンメンタリ』

「第4のパネルには、どのようにして3人の天使がアブラハムに出現し、また、どのようにして彼が三人のうちの一人を礼拝しているか、さらに使用人と驢馬がどのようにして山の麓に留まっているかが示されている。また、どのようにしてアブラハムがイサクの衣を剥いで犠牲にしようとしているか、その天使がどのように刃物を持ったアブラハムの手を掴み、彼に雄羊を示しているかが示されている。」

## ヤコブとエサウ（図2-5）

### 1. リベカが予言を受ける

物語は屋上から始まる。そこではリベカが、自身の双子の息子が将来争うことになるとの予言を受けているのが見られる。

「そして主は彼女に、「二つの部族があなたの胎内に宿っている。そしてあなたから生まれた二つの民は仲違いをし、一方が他方よりも強くなり、兄が弟に仕えることになるだろう」と言った。」『創世記25：23』

### 2. リベカの出産

ここではリベカは極めて低浮き彫りで表



現されており、かなり離れた左側の列柱廊の下方で双子を出産している。

「出産の時間が差し迫った時、彼女の胎内には双子がいた。最初に出てきた子は赤く、身体中が毛皮の衣のようであったため、エサウと名付けられた。その後、弟が出てきたが、エサウのかかとを掴んでいたため、ヤコブと名付けられた。」『創世記 25：24-26』

### 3. エサウが長子の権利を譲る

中央のアーチの中で、エサウは弟のヤコブに長子の権利を売り、ヤコブは腹をすかせたエサウに一碗の食べ物を供している。

「ある時、ヤコブが煮込み料理をしていると、エサウが野からやって来た。エサウは飢えており、ヤコブに、「腹が空いているから、その赤い食べ物をいくらか食べさせて欲しい」と言った。ヤコブは、「まず、お兄さんの長子の権利を譲ってください」と言った。エサウは、「腹が減って死にそうだ。長子の権利などどうでもよい」と言った。」『創世記 25：29-32』

### 4. イサクがエサウを狩りに送る

イサクはエサウに最後の食事を用意するよう頼んだ。ヤコブは獲物を取るため、レリーフのかなり離れた右側に見える丘へ向かっている。

「今すぐ、お前の武器である矢筒と弓を取り、野に出て、私に獲物を取ってきなさい。そして私の好きな味のよい食べ物を用意し、私の元へ持ってきてきなさい。そうすれば、死ぬ前にお前を祝福しよう。」『創世記 27：3-4』

### 5. リベカが策を施す

右のアーチの下で、エサウが不在の間に、リベカとヤコブが策を練っている。彼らは屠られた子羊を持ってきて、ヤコブの肌に置き、毛深いエサウのように見せるだろう。

「そして彼女はヤコブの手と首の滑らかなところに子ヤギの皮を置いた。それから彼女は、自分が用意した味のよい食べ物とパンを息子のヤコブに手渡した。」『創世記 27：17』

### 6. イサクがヤコブを祝福する

右側の前景では、ヤコブが盲目のイサクの前に跪いている。イサクは、ヤコブの背中中の毛深い肌を触って、彼がエサウだと信じ込み、誤って長子の祝福をヤコブに与えている。

「ヤコブが父親のイサクに近づくと、イサクは彼に触れて、「声はヤコブの声だが、腕はエサウの腕だ」と言った。イサクは、ヤコブの腕が兄のエサウの腕のように毛深かったため、ヤコブだと見破ることができなかった。そうしてイサクはヤコブを祝福した。」『創世記 27：22』

### 7. エサウはやがて自分が弟のヤコブの支配下に置かれることを知る

レリーフの中央では、エサウが傍に二匹の猟犬を連れて父のもとに戻ってきている。彼はヤコブが父を騙し、自分が今やヤコブに仕えるしかないことを知る。エサウは、ギベルティがその真後ろに描写している長子の権利を与えたことを悲しんでいる。毛深さゆえにエサウと同一視される

犬は頭を垂れ、ヤコブを想起させる毛のない犬は頭を上げている。

「エサウは、「よくもヤコブと名付けたものだ。彼は二度も私に取って代わった。一度目は私の長子の権利を奪い、今度は私の祝福を奪った…」と言った。イサクはエサウに次のように答えた。「…お前は剣に頼って生き、そして弟に仕えるだろう。」

『創世記27：36, 39-40』

ロレンツォ・ギベルティ『コンメンタリー』

「第5のパネルには、どのようにしてエサウとヤコブがイサクに生まれ、また、どのようにしてイサクがエサウを狩りに送り、さらに、母親がどのようにしてヤコブに指示し、彼に子山羊の毛皮を与えてそれを彼の首に結びつけ、イサクから祝福を求めるよう告げているかが示されている。また、イサクがどのようにしてヤコブの首を調べ、それが毛深いことを認めて彼に祝福を与えるかが示されている。」

## ヨセフ（図2-6）

### 1. ヨセフが奴隷として売られる

物語は、かなり離れた右上部の、ヨセフの兄弟たちが彼を井戸に投げ入れ、続いて商人たちに売るところから始まる。これらの商人は、今度はヨセフをエジプトのファラオに売った。

「さあ、彼を殺して穴に投げ入れよう。そして野獣が彼を貪り食ったと言おう…。」

『創世記37：20』

### 2. ヨセフが穀物の保管や分配を監督する

ヨセフは、ファラオの飢饉の夢を解釈した後、巨大な公共の穀物倉の造営担当になった。

「彼は、エジプトの土地が豊作であった7年の間に国中の食糧を集めた。…それゆえヨセフは——海の砂のように——大量に穀物を貯蔵できたため、それを量るのをやめた。それは量りきれないほどであった。」

『創世記41：48-49』

### 3. ベニヤミンが銀のカップと共に見出される

ヤコブは、飢饉の間、息子たちをエジプトに送って穀物を買わせた。エジプトではヨセフは兄弟たちを認識したが、兄弟たちはヨセフをそれと認識できなかった。兄弟たちがエジプトを再訪した際、ヨセフは一番年下の弟ベニヤミンの袋に自分の銀杯をこっそりしのび込ませた。その後、ヨセフは使者を送り、銀杯窃盗のかどで兄弟たちを告発した。彼らが驚き恐れおののいたことには、銀杯はベニヤミンの袋の中に見出された。

「使者は最年長者から探し始め、最後に最年少者で終えた。そして銀杯はベニヤミンの袋の中に見出された。そこで彼らは自身の服を引き裂き、それぞれ驢馬に荷を積み、町に引き返していった。」『創世記44：12-13』

### 4. ヨセフが兄弟たちに正体を明かす

左側の中央の高台上の最後の場面は、ヨセフが兄弟たちと和解し、心を通わせているところを示している。

「その時ヨセフは兄弟たちに、「私の近くに来てください」と言った。彼らが近づくと、ヨセフは言った。「私はあなたたちがエジプトに売った弟のヨセフです。今は、私をここへ売ったことを、悔やんだり、責め合ったりしないでください。というのも、神があなたたちを救うために、あなたたちより先に私を遣わされたのですから。」」『創世記45：4-5』

ロレンツォ・ギベルティ『コンメンタリー』

「6番目のパネルには、ヨセフがどのように兄弟たちによって井戸に投げ込まれ、また、兄弟たちがどのようにヨセフを売り、そしてヨセフがどのようにエジプトの王ファラオに与えられるかが示されている。夢を介して大飢饉がエジプトを襲うことになっていることが示された。そして、ヨセフが提案した救済策が示されると、それらの地方一帯が節約に努め、彼らは必要なものを得た。それゆえヨセフは、ファラオから大いに厚遇された。ここには、どのようにしてヤコブが息子たちを送り、ヨセフが彼らを認識したかが示されている。また、いかにしてヨセフが彼らに、弟のベニヤミンと戻ってこなければ穀物を得られないと告げているかが示されている。彼らがベニヤミンと共に戻ってきたので、ヨセフは彼らのために宴会を催し、ベニヤミンの袋の中にカップを忍び込ませた。そしてそこには、どのようにしてそれが見出され、また、ベニヤミンがヨセフの前に連れてこられたか、さらにいかにしてヨセフが兄弟たちに自身の正体を明かしたかが示されてい

る。」

## モーセ（図2-7）

### 1. モーセが十戒を受け取る

神はモーセとアロンにシナイ山に登って十戒を受け取るよう命じた。画面上方右側には、アロンが跪いて自分の目を覆っているのが示されている。頂では、神と天使たちが旋風と共に降下してモーセに十戒を齎している。

「主はシナイ山の頂へ降られ、モーセを山頂に呼び出された。そこでモーセは登っていった。」『出エジプト記19：20』

### 2. イスラエルの民が驚かされる

前景では、イスラエルの複数の部族が、雷鳴がとどろき、稲妻や稲光が明滅する山の光景に驚き畏怖して天幕の前に集まっている。

「すべての民が、稲妻や稲光、角笛の音、煙に包まれた山を目撃して恐れた。」『出エジプト記20：18』

ロレンツォ・ギベルティ『コンメンタリー』

「7番目のパネルには、モーセがどのように山の頂で十戒を受け取り、またどのように、ヨシュアが山の中腹に留まったか、さらにどのように人々が地震や稲光、雷に驚き、また人々がすっかり恐れてどのように山麓に立ちすくんでいるかが示されている。」

## ヨシュア (図2-8)

### 1. ヨシュアが渡河を指揮する

モーセの後継者ヨシュアの物語は、馬車内に立つヨシュアが、奇跡的に干上がったヨルダン川の渡河を指揮している画面左側中央から始まる。契約の箱を運んでいる聖職者たちが（一行を）先導している。

「全地の主である主の箱を運ぶ聖職者たちの足の裏がヨルダン川の水に触れると、上流から流れ下るヨルダン川の水はせき止められ、その水は一塊になって立ち上がるであらう。」『ヨシュア記3：13』

### 2. 石を集める

右の前景では、イスラエルの12部族のそれぞれから一人ずつ出て天幕の前に集まり、ヨルダン川の分割を祝して記念碑を建てている。

「ヨシュアは彼らに、「あなたたちの神である主の箱の前を通り、ヨルダン川の中へ進み、あなたたちのうちそれぞれが、イスラエル人の諸部族それぞれについて一つの石をとって肩に載せなさい。そうすれば、それがあなたたちの間でしるしになる」と言った。」『ヨシュア記4：5-6』

### 3. エリコの包囲

イスラエル人たちがカナンに入った後の最初の主要な戦いは、エリコで起こった。背景では、ヨシュアと家臣たちが要塞都市の周囲を行進しているのに合わせ、聖職者たちが角笛を鳴らしている。7日間の行進後、壁が崩れ、町は陥落した。

「7日目、彼らは明け方に起床し、町の周囲を同じ方法で7度行進した。彼らが町の

周囲を7度行進したのはこの日に限ったことであった。そして7度目に聖職者が角笛を吹いた時、ヨシュアは人々に、「関の声をあげよ。主があなたたちにその町を与えられたのだから。」と言った。」『ヨシュア記6：15-16』

ロレンツォ・ギベルティ『コンメンタリー』

「8枚目のパネルには、ヨシュアがどのようにエリコに赴き、ヨルダン川に来て駐軍し、12の天幕を張ったのか、また、彼がどのようにエリコの周囲に行って角笛を鳴らしたのか、さらにどのように7日目の最後に城壁が落ち、彼らがエリコを獲得したのかが示されている。」

## ダビデ (図2-9)

### 1. サウル王が軍隊に向かって話をする

左側では、サウル王が文字ではっきりと明示され、戦闘中のイスラエル軍とペリシテ軍の上方に突出した恰好で、軍隊に向かって話をしている。

「サウルとイスラエル人たちはエラの谷に集結して野営し、ペリシテ軍に対して隊列を組んだ。」『サムエル記上17：2』

### 2. ダビデがゴリアトの首を切る

ダビデが、投石機から放った石で巨人を撃ち落とした後、彼の首を切り落としているのが前景に示されている。ダビデは、ゴリアトの首を切るのに、ゴリアト自身の重い剣を使っている。

「そしてダビデは投石機と石によってそのペリシテ人に勝ち、彼の上に跨って殺し

た。ダビデの手には剣はなかった。そこでダビデは走ってペリシテ人の上に跨り、彼の剣を掴んで鞘から引き抜き、彼を殺した。次いでダビデはその剣でペリシテ人の頭を切り落とした。」『サムエル記上 17：50-51』

### 3. ペリシテ軍の敗北

パネルの右側は、イスラエル軍が剣や斧でペリシテ軍を追い払っている様子を示している。ペリシテ軍は、ゴリアトが敗れたのを見て逃げ去った。

「イスラエルとユダの軍隊は関の声を立てて立ち上がり、ガイの境エクロンの門までペリシテ人を追い詰めた…。」『サムエル記上 17：52』

### 4. エルサレムへの凱旋

パネルの上部の山間には、ダビデと彼の従者たちが、背景に見られるエルサレムの町へゴリアトの首を誇らしげに運んでいる。

「ダビデはそのペリシテ人の首を取って、それをエルサレムに持ち帰ったが、ゴリアトの甲冑は自分の天幕に置いた。」『サムエル記上 17：54』

ロレンツォ・ギベルティ『コンメンタリー』

「第9のパネルには、どのようにしてダビデがゴリアトを殺害し、主の民である彼らがペリシテ軍を破り、また、ダビデがどのようにしてゴリアトの首を手にして町に戻るかが示されている。さらに、どのようにして人々がダビデに会いに来て音楽を奏

で、歌い、「サウルは千を討ち、ダビデは万を討った」と語っているかが示されている。」

## ソロモン（図2-10）

### 1. ソロモンがシェバの女王を歓迎する

シェバの女王はソロモン王の賢明さを聞き、彼を難問によって試そうとイスラエルを訪れた。パネルの中央では、ソロモン王がシェバの女王に左手を伸ばして歓迎している。

「シェバの女王はソロモンの名声を聞き、彼を難問で試そうとやってきた…。そしてソロモンのもとに来ると、考えていたすべての質問を彼に浴びせた。ソロモンはそのすべての問いに答えた。ソロモン王が知らないで彼女に説明できないことは何一つなかった。」『列王記上 10：1-3』

### 2. 両者の従者たちは傍観する

女王の従者たちは、ソロモンの宮廷の広いホールの前で傍観している。女王は、多くの側近や香辛料、貴石、珍獣とともに到着したにもかかわらず、ソロモンの富に魅了されていた。

「私の国で耳にしたあなたの事績と知恵に関する報告は真実でした。しかし、私はここに来て自分の目でそれを拝見するまではその報告を信じていませんでした。半分すらも私には伝えられていませんでした。つまりあなたの知恵と繁栄は私が聞いていた報告をはるかに凌いでいるのです。」『列王記上 10：6-7』

ロレンツォ・ギベルティ『コンメンタリー』

「10 番目のパネルには、シェバの女王がどのように多くの従者を連れてソロモンのもとを訪れるかが示されている。彼女は多くの人々に取り囲まれている。」

[凡例]

1. 本邦訳は、Anna Maria Giusti, Gary M. Radke, *THE GATES OF PARADISE From the Renaissance Workshop of Lorenzo Ghiberti to the Modern Restoration Studio*, Firenze - Milano, 2012 に収載されている Gary M. Radke, “Lorenzo Ghiberti and his Workshop” の第4章に当たる “4. Ghiberti, master of storyteller”, pp. 68-119 を訳出したものである。
2. 図版番号は原書中の番号ではなく、本拙訳用に新しく施したものである。また、原書の当該の章には部分図を含む数多くの図版が掲載されているが、紙幅の制約上、図版は必要最低限に留めた。さらに、必要に応じて図版中に番号を挿入した。
3. 人名や地名の表記は、新共同訳『聖書』旧約聖書続編つき、日本聖書協会、1993 年に拠った。



図1 ロレンツォ・ギベルティ 《天国の門》（修復後）  
フィレンツェ オペラ・ディ・サンタ・マリア・デル・フィ  
オーレ博物館



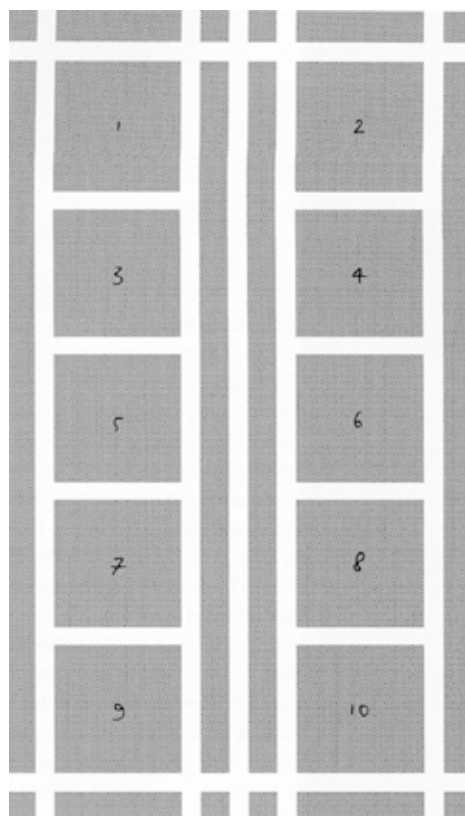


図2 ロレンツォ・ギベルティのサン・ジョヴァンニ洗礼堂のための《天国の門》の主題

1. アダムとエバ
2. カインとアベル
3. ノア
4. アブラハム
5. ヤコブとエサウ
6. ヨセフ
7. モーセ
8. ヨシュア
9. ダビデ
10. ソロモン

How the Lord creates the heavens and stars 1	The Lord makes man and woman 2	Adam and Eve, flanking the tree, eat the apple 3	How they are driven from Paradise by the angel 4
Cain kills his brother Abel 5	Every kind of animal enters into Noah's Ark 6	Abraham is willing to sacrifice Isaac, according to the commandment of the Lord 7	Isaac gives his blessing to Jacob believing him to be Esau 8
The brethren of Joseph sell him out of envy 9	The dream of Pharaoh of the seven kine and the seven ears of corn 10	Joseph recognizes his brethren who have come to Egypt for grain 11	Moses sees the Lord in the burning thorns 12
Moses speaks to the Pharaoh and performs miraculous signs 13	The Sea divided and the people of the Lord passing through 14	The Laws given by the Lord to Moses on the burning mountain, the trumpet sounding 15	Aaron makes sacrifice on the altar, (dressed) in priestly habit with bells and pomegranates around his robes 16
The people of the Lord pass the river Jordan and enter the land of promise with the ark of the covenant 17	David kills Goliath in the presence of King Saul 18	David made king amid the cheers of the people 19	Solomon passes judgement on two women over the question of the child 20
Prophet Samuel 21	Prophet Nathan 22	Prophet Elias 23	Prophet Elisha 24
Prophet Isaiah 25	Jeremiah 26	Ezekiel 27	Daniel 28

図3 レオナルド・ブルーニによる《天国の門》の最初のプログラムの主題（クラウトハイマーによる）

1. 主による空と星の創造
2. 主による男と女の創造
3. 木の傍で林檎を食べるアダムとエバ
4. 楽園追放
5. カインによるアベル殺害
6. ノアの箱舟
7. イサクの犠牲
8. ヤコブを祝福するイサク
9. 兄弟に売られるヨセフ
10. ファラオの墓
11. ヨセフが兄弟をそれと認識する
12. モーセが燃える柴の間に主を見る
13. ファラオと交渉し奇跡のしるしを行うモーセ
14. 水が分かれ主の民が紅海を渡る
15. モーセが十戒を受ける
16. アロンが祭服を着て供儀を行う
17. 主の民がヨルダン川を渡り契約の箱を持って約束の地に入る
18. ゴリアトを殺害するダビデ
19. 民の歓喜の中で王となるダビデ
20. ソロモンの知恵（子供の母親を特定するために示された知恵）
21. 預言者サムエル
22. 預言者ナタン
23. 預言者エリヤ
24. 預言者エリシャ
25. 預言者イザヤ
26. 預言者エレミヤ
27. 預言者エゼキエル
28. 預言者ダニエル





図2-1. アダムとエバ



図2-2. カインとアベル

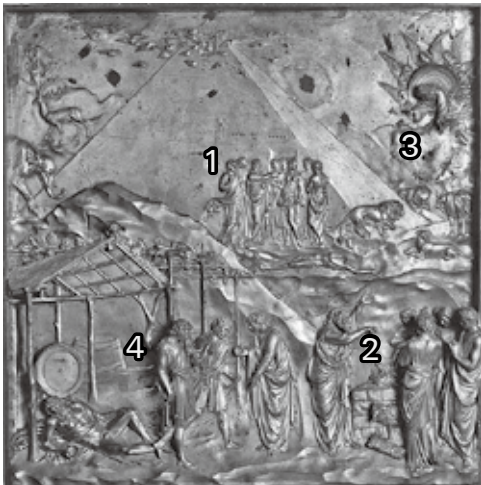


図2-3. ノア



図2-4. アブラハム



図2-5. ヤコブとエサウ



図2-6. ヨセフ



図2-7. モーセ



図2-8. ヨシュア

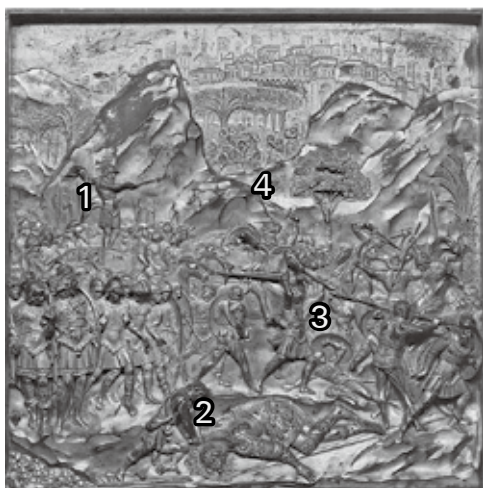


図2-9. ダビデ



図2-10. ソロモン